

境港市における観光活動設計のプロセスと今後の課題 - 水木しげるロード周辺の事例を中心として -

調査研究サブディレクター 澤田廉路

【要旨】

2007年、147万人を越す観光入込み客があった境港市の水木しげるロードの活性化してきた要因を観光活動のプロセスを追って検証した。

最初に行政機関が公共事業で基盤整備をし、次に公的な機関が様々な演出支援をし、最後に民間団体が人を呼び込むイベントをするようになった大きな流れがある。その展開のプロセスを追ってみると次のようなことが明らかとなった。

- ・同時期に行われていた商店街活性化の水木しげるロード整備とJR境港駅前地区の土地区画整理事業がタイミング良くドッキングした。
- ・水木しげるロードの妖怪ブロンズ像設置は徐々に継続的に行い、境港市では整備の節目ごとに水木しげる氏を招いて式典を開催するなどの演出も行った。
- ・境港市の財政が逼迫する中で、妖怪ブロンズ像のスポンサーを全国公募するなどの知恵を民間団体が絞り、各団体も協力しあって整備をすすめた。
- ・水木漫画の人気キャラクターの「鬼太郎」や「妖怪」に託けた取り組みを民間団体が中心になりつつ、行政機関、公的機関も支援して、それぞれで出来ることを行った。

今後は、観光地化して活性化した地域に起こりがちな、どこにでもありそうな地域のイメージに相応しくない観光土産店ではなく、地域のイメージにあった商店をどうつくっていくか、今まで成果を上げてきた各機関のバランスの良い連携を活かして、水木しげるロード周辺商店街の活性化を、拡がりをもってどう継続発展させるかが課題である。

1. はじめに

境港市では2007（平成19）年の年間観光入り込み客が水木しげるロードに1,478,330人、水木しげる記念館には274,638人の入館者があり鳥取県の十大ニュースにもなった。一方、北栄町の青山剛昌ふるさと館は2007（平成19）年3月18日に開館し、12月末までに、73,276人の入館者があった。同館では1年間の目標来館者数を13万人としているが、とてもこの

目標には届かない厳しい状況となっている。青山剛昌ふるさと館では、「名探偵コナン」の著作権等の関係で、集客力のある事業展開や営業活動が行いにくいといった問題があるが、水木しげるロード、水木しげる記念館がどのようなプロセスを歩んだのか、観光活動設計といった視点で検証すれば参考になると考えられる。

境港の水木しげるロードも整備当初から多

数の観光入り込み客があったわけではなく、様々な取り組みが各組織の連携のもとに行われて、徐々に成果をあげたのであって、まずそのプロセスを踏まえる。そして、今後も引き続き境港の水木しげるロードでは入り込み客を確保できるのか、観光地化する地域のあり方として問題点はないのか課題を探る。

2. 研究の方法

2.1 用語の定義と研究目的

伝統的建造物群保存地区のまちなみ景観などを観光資源と捉え、観光客を受け入れる種々の行為を大森、西山氏は「観光活動設計」と定義付け、「空間設計」「演出設計」「誘致設計」の3つの設計ステージ¹の概念に分けて活動を分析している。

その中で「空間設計」を地域の魅力および地域の観光活動の基盤整備の設営設計と定義し、「演出設計」は「空間設計」によって地域にしつらえた空間をホストとゲストの交流の場としてどのように使いこなすかという地域内のソフト設計と定義付け、「誘致設計」は「空間設計」「演出設計」によって準備された地域にどのような客層をどのようなパイプで誘致するかに関する対外ソフト設計と定義付けている。このような考え方を境港市の活性化事例に当てはめてプロセスを分析して、同様な観光集客を目指す地域の参考にするため境港で事業活動の主体となった組織、事業内容の変化を明らかにして成功要因を考察する。

2.2 研究の方法

境港市役所を中心とする行政の水木しげるロード事業関連資料、広報誌「市報さかいみ

など」、境港商工会議所「SAKAIMINATO会議所ニュース」、新聞の検索等で約20年間の出来事を掘り起こした。その上で、境港市、境港市観光協会、水木しげるロード振興会で聞き取りを行い、内容を確認し補正して、今までの経緯全体を把握した。それらの事業の取り組みを、JR境港駅の移転を含む土地区画整理事業、妖怪漫画ブロンズ像の設置、水木しげる記念館などの「空間設計」とイベント等の「演出設計」「誘致設計」に活動時期を4期に分けてプロセスを分析する。

3. 境港の観光活動設計の分析

3.1 時期別の活動内容と事業主体

境港市役所内に若手職員14名からなる「街づくりプロジェクト委員会」が1988（昭和63）年に設置され、「緑と文化のまちづくりフォーラム」に水木しげる氏をパネリストとして招いて、着想した水木漫画活用のアイデア検討から事業着手の1992（平成4）年までの間を **構想期**、水木しげるロードに妖怪ブロンズ像が23体設置された最初のオープン1993（平成5）年から境港市で実施された「夢みなと博覧会（鬼太郎シアター）」開催の1997（平成9）年までを **初動期**とし、1998（平成10）年の水木しげるロード振興会設立から水木しげる記念館開館の2003（平成15）年までを **模索展開期**、水木しげる記念館開館後の妖怪ブロンズ全国公募開始の2004（平成16）年から水木しげるロードの入込み客が年間147万8千人を超えた2007（平成19）年末までを **発展期**として期間を分けて、内容を分析する。

構想期 1988～1992

(昭和63年～平成4年)

¹ 大森洋子、西山徳明（1997）：「歴史的町並み地区における観光活動設計に関する研究」第32回日本都市計画学会都市計画論文集 pp277-282

1988（昭和63）年に境港市役所内に若手職員14名による「街づくりプロジェクト委員会」がつくられ、市民参加のもと「緑と文化のまちづくり」を策定し、1990（平成2）年には「緑と文化のまちづくりフォーラム」を開催した。地元出身の漫画家水木しげる氏をパネリストに招き、水木氏の作品を町に置いてはどうかの話が本人からでる。この発言が今日の水木しげるロードに至る発端ともいえる。この発言をきっかけにプロジェクト委員の一人が水木漫画の利用を思いつき「水木しげる漫画の妖怪ブロンズ像設置によるまちづくり」をプロジェクト委員会のアイデアとして境港市長に提案する。このアイデアを衰退している商店街の活性化につなげることができないかと自治省で新たに創設された「商店街等振興整備特別事業制度」を利用して商店街振興のための道路改修を検討する。しかし、地元商店街はもとより市役所内部でもこのアイデアには妖怪に対するイメージの悪さから反対するものが多かった。市の担当職員の根気強い熱心な説得によって松ヶ枝町南側の何人かが同意し、アイデアが実現することになった。水木しげる漫画の人気妖怪キャラクターの鬼太郎、目玉おやじ、ねずみ男等6体のブロンズ像が1992（平成4）年松ヶ枝町南側歩道に設置された。また、この同時期の1991（平成3）年3月には駅前大正町を含む14.7haで土地区画整理事業が決定公告され、JR境港駅及び港湾関連施設の統合整備による、駅前の道路・公園等の公共施設整備がこの年に始まる。

このような経緯から明らかなように、「空間設計」である公共整備型の土地区画整理事業はもとより、「商店街等振興整備特別事業制度」を利用した水木しげるロード整備事業は境港市を中心とした行政主導で始まった。また同時期の、1991（平成3）年8月に水木しげる氏の自伝「のんのんばあとオレ」がNHK

でTVドラマ化され5回にわたって全国放送され、翌1992（平成4）年8月にも「続のんのんばあとオレ」が同じく5回シリーズで放映されて、水木しげる氏のふるさと境港と妖怪の関係が知られるようになり、地元境港市が関与しないで「誘致設計」的に境港は全国に紹介PRされて事業推進が後押しされた。

初動期 1993～1997 (平成5年～平成9年)

地元住民の同意を取り付けた松ヶ枝町南側に妖怪ブロンズ像17体が追加され、1993（平成5）年7月に水木しげるロード200mに23体のブロンズ像が設置完了して、オープン式典・除幕式が行われた。水木しげる氏を招いての境港市主催の式典は「演出設計」として機能した。ところが、オープンの3日後に妖怪ブロンズ像が盗まれて、そのニュースが全国放送された。このニュースは経費をかけることなく「誘致設計」的PR効果が大で、他県からの見学客を呼び込んだ。また、JR境線を走る列車に漫画キャラクターの鬼太郎をペイントした鬼太郎列車をJRが1993（平成5）年9月に運行を開始させた。1994（平成6）年7月には境港市内の郵便局が妖怪漫画の消印サービスを始めるなど、郵便局やJR等公共的機関が「演出設計」となる水木しげる氏の妖怪漫画を利用したサービス業務を始めた。このような時期に境港市の水木しげるロード整備に対し1994（平成6）年9月鳥取県は景観大賞を授け、翌1995（平成7）年7月には同じく建設省は「手づくり郷土賞」を授けるなど、行政機関はお墨付きを与え、事業推進の後押しをした。

この年、境港市は市報「さかいみなと」12月号に市報別冊として妖怪ガイドブックを作成し市民配布した。これを観光客用に境港市観光協会は再編集して増刷し、100円で販売²

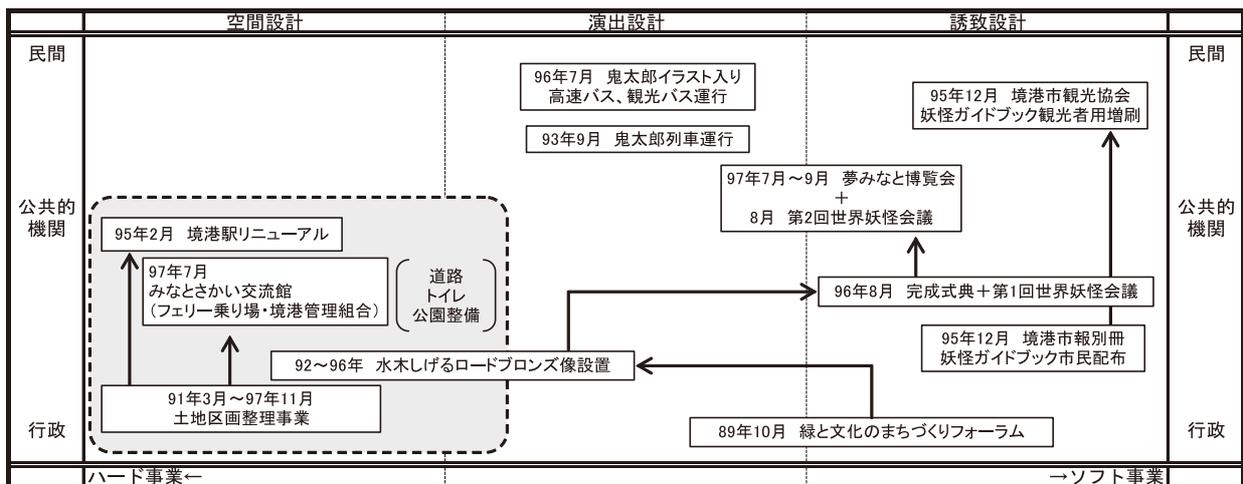
する。1996（平成8）年には商店街等振興整備特別事業が終了し、約800mの沿道に妖怪ブロンズ像80体が並んだ水木しげるロード完成式典を境港市は8月に水木しげる氏を再度招いて行った。翌日には第1回世界妖怪会議を水木しげる氏の他、京極夏彦氏、多田克己氏、小泉凡氏（小泉八雲のひ孫）など妖怪に関する著名人をゲストにして開催した。これは、全国から会場に入りきれない多数の人を集めた「誘致設計」である。水木しげるロード全体が完成し、行政主体の「空間設計」事業が一段落するが、1996（平成8）年には民間のバス会社が鬼太郎を描いた高速バス、観光バスを運行させるなど民間企業も事業展開に参加する。

翌1997（平成9）年は鳥取県が中心となって境港市竹内団地を会場にして中国・四国地方初のジャパンエキスポ「夢みなと博覧会」が官民一体となって開催される。境港市は水木しげる氏監修の「鬼太郎ワンダーシアター」で出展参加し、博覧会場内で第2回世界妖怪会議も開催され、そのものが「誘致設計」で

ある博覧会の集客を水木しげるロードへと誘導を図った。また1997（平成9）年7月博覧会開催に間に合うようフェリー乗り場を兼ねた交流施設「みなとさかい交流館」がJR境港駅に隣接して完成した。この建物は1991（平成3）年に事業決定された土地区画整理事業による最後の大型「空間設計」だが観光案内所、サウナ、レストラン、展示施設等の「演出空間」を兼ね備えた施設で1997（平成9）年11月には他の整備も含めて土地区画整理事業は終了する。

この時期は別々に行われていた行政主体の「空間設計」がほぼ同時期に終わり、建設省の「手づくり郷土賞」（2回目）、ジャパンエキスポ大賞通産大臣賞を受け、一つの区切りとなる。一部に民間の取り組みが始められるが、この期間は行政主体による「空間設計」が施工され、その空間を使った「演出設計」がなされた時期である。ただ、これらの公共事業は当初必ずしも「観光活動設計」として始められたわけではなく、地域の公共施設の基盤整備と商店街の活性化をメインに意図さ

図1 観光活動設計の構想期・初期のフロー図



2 この妖怪ガイドブックは、スタンプラリーの台紙の兼用もできるように工夫され、平成18年4万部、平成19年8万部売れる大ベストセラーになっている。

れたものであった。

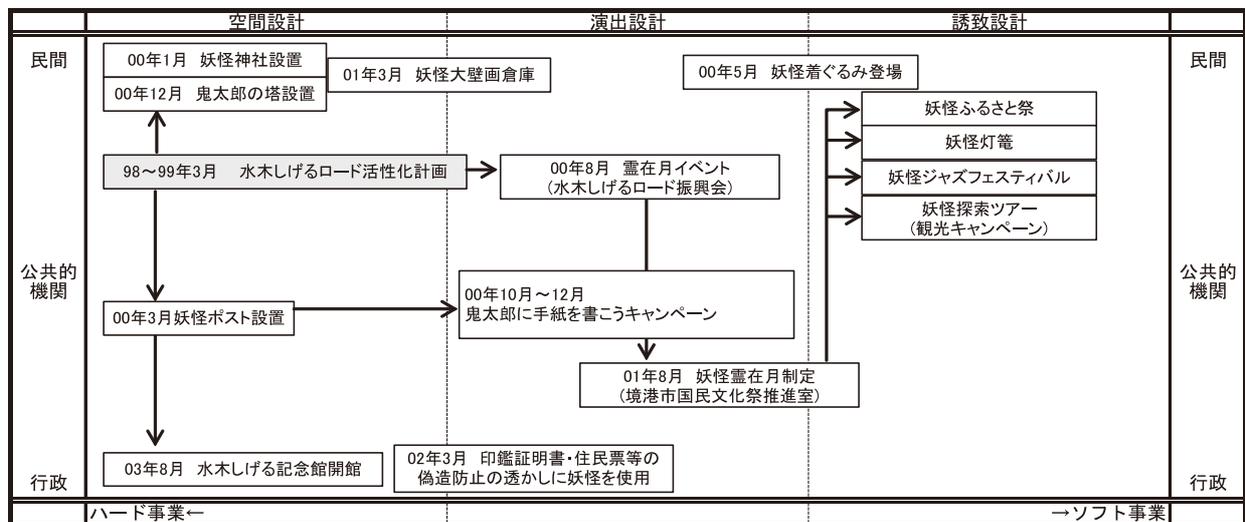
模索展開期 1998～2003
(平成10年～平成15年)

水木しげるロードが完成し、1997(平成9)年には境港市を会場にした博覧会も終わり、1998(平成10)年は水木しげるロードで今後は何をすればいいのだからと、模索する時期になる。水木しげるロード沿いの商店主ら26名の有志は従来の商店街組合とは別に「水木しげるロード振興会」を5月に発足させる。手始めに、水木しげるロード振興会会員店舗に妖怪スタンプを作成し備え付ける。妖怪ブロンズ像の設置後の事業活動方針を決めるため水木しげるロード振興会は境港商工会議所事業の一環として「商店街活性化基本計画」を1998(平成10)年に策定する。この計画には「水木しげる記念館」「妖怪神社」等のハードな「空間設計」の計画が盛り込まれていた。2000(平成12)年には計画とは異なる位置だが「妖怪神社」が民間会社によって建立され、またブロンズ像のモニュメント「鬼太郎の塔」を民間の運送会社が建立し境港市に寄贈する。同社は2001(平成13)年に自社倉庫を妖怪イ

ラストのペイントで装飾して妖怪倉庫として様変わりさせる。このように、財政状況が厳しい境港市の行政に代わって民間主体による「空間設計」事業が行われ始める。水木しげるロードにある郵便局が鬼太郎のブロンズ像を取り付けた妖怪ポストを2000(平成12)年設置すると共に、鬼太郎に手紙を書こうキャンペーンを実施する。これは「空間設計」に「演出設計」「誘致設計」を連携させた取り組みである。JRも2代目鬼太郎列車運行を開始させ、移動する「空間」で演出、誘致を促す活動が始まる。2000(平成12)年には出雲の10月の神在月を参考にして水木しげるロード振興会が8月を霊在月としたイベントを開催するが、2001(平成13)年8月には境港市国民文化祭推進室が妖怪霊在月を制定してイベントをするようとりまとめを提案し、2002(平成14)年国民文化祭プレイベントとして水木しげるロード振興会、境港市観光協会等が中心になって妖怪盆踊り、妖怪灯籠、妖怪ジャズフェスティバル、妖怪探索ツアーなど妖怪に託けたイベントを実施する。

一方、境港市では1997(平成9)年に基本計画を策定していた水木しげる記念館を夢み

図2 観光活動設計の模索展開期のフロー図



など博覧会の終了後に着手し、翌1998（平成10）年には6億6千万円で竣工される予定であったが、境港の基幹産業である水産業の不振等で境港市の財政状況も厳しく反対する議員もあって、1998（平成10）年1月に計画の一時中断を検討し、市長は同年3月議会で中断決定を説明した。

しかしながら、水木しげるロードの入り込み客は2000（平成12）年には61万人を超える状況になっていた。その2000（平成12）年水木しげるロード沿いの古い老舗の料亭を改装して水木しげる記念館にするアイデアがでる。境港市は2000（平成12）年10月に鳥取県西部大震災の被害もあった中、「水木しげる記念館」設置に反対する意見もあったが自治省の地域総合整備事業の助成期限（平成13年度末）に間に合うよう境港市では2001（平成13）年6月に補正予算を計上し、「水木しげる記念館」設置に着手することになり、総事業費4億8千万円の経費で建物を取得改修して、2002（平成15）年3月に観光活動の核となる施設は竣工した。

この時期はどのような活動をすべきか商店街の店主らが中心になって「水木しげるロード活性化計画」を作成し、民間企業、各団体は模索しながらも、それぞれ「演出設計」であるイベントの知恵を絞って積極的に実施し、行政機関も2002（平成14）年の鳥取県開催の国民文化祭をきっかけにそれらを取りまとめて支援をするようになる。また、懸案となっていた水木しげる記念館を自治省地域総合整備事業の助成期限ギリギリに申請着手して、既存施設の取得改修の手法で核となる「空間設計」を予定より安くしかも広い面積で実現させた。水木しげるロードの事業完成以降の目玉となる「空間設計」のハード事業は、この記念館の完成でもって終了する。

発展期 2004～2007

（平成16年～平成19年）

自治省の助成事業が終了し、また逼迫している境港市の財政状況ではこれ以上のブロンズ像の設置は望めないと、境港市観光協会、境港商店街連合会、水木しげるロード振興会、水木プロダクションで「妖怪ブロンズ像設置委員会」を立ち上げ、妖怪ブロンズ像のスポンサーを2004（平成16）年11月に全国公募し、86体になっていたブロンズ像を100体までに増やす計画をたてた。これは単なる「空間設計」の整備ではなく全国公募することと寄贈者名のプレートを取り付けることで「誘致設計」的な機能も果たし、1体100万円の負担であったがブロンズ像スポンサーは公募開始から2ヶ月も経たない内に目標を超える申し込みで期待以上の成果を上げ、2005（平成17）年4月には16体が完成して合計102体となった。6月には、合計102体になった妖怪ブロンズ像に加えて5枚の妖怪レリーフ、妖怪倉庫、水木しげる記念館内の妖怪などを紹介した「誘致設計」となる単行本「水木しげるロードの妖怪たち」を境港市観光協会が刊行した。この本は120体になるまで2回改訂され、後に実施される「境港妖怪検定」のテキストとなるが様々な取り組みとリンクした「誘致設計」の好事例といえよう。7月には11体のブロンズ像が増設され、再度水木しげる氏を招いて、妖怪ブロンズ像の入魂式を実施し、水木しげるロードを大行進した。また、2005（平成17）年8月には、水木ロードでもロケが行われた映画「妖怪大戦争」が全国で封切りされた。JRでは米子駅から境港駅までの16駅を「観光路線化」して駅も妖怪の愛称名、妖怪の装飾を付けて11月に完成させ、車両の妖怪デザインもリニューアルした。

2006（平成18）年1月には鳥根県隠岐青年会議所によって、境港から隠岐までのフェリー

に鬼太郎をペイントした鬼太郎フェリーが就航し、2月には「ねずみ男列車」がJR境線に新たに加わって運行した。3月には全国公募最後の妖怪ブロンズ像が設置された。同年3月鳥取県から鬼太郎に「とっとり妖怪観光大使」の称号が与えられ任命式が行われ、今まで以上に鳥取県の観光PRに駆り出されるようになる。行政の方もハード事業はなくなり、「誘致設計」であるソフトな事業支援へとシフトする。

水木しげるロード周辺商店街は2006（平成18）年5月商店街活性化の優良事例として評価を受け中小企業庁の「がんばる商店街77選」に選定されて、全国の商店街、議会議員の視察なども増える。7月には、JRが観光路線化の一環で「ねこ娘列車」を運行開始させ、鳥取県警は境港駅前交番に「鬼太郎交番」の愛称をつけ除幕式を行う。妖怪霊在月の8月には新たな企画を境港市観光協会、水木プロダクション等でつくる「妖怪そっくりコンテスト実行委員会」で検討し、第1回妖怪そっくりコンテストを実施する。10月には第1回妖怪川柳コンテスト、第1回境港妖怪検定試験も境港市観光協会、境港商工会議所などが協

力して実施する。同年10月、境港商工会議所は創立100周年事業で水木しげる氏が山高帽をかぶった姿のブロンズ像を120体目最後の妖怪ブロンズ像として水木しげる記念館前庭に寄贈設置する。

2007（平成19）年1月には妖怪街灯の全国公募を行うため境港市観光協会、境港商工会議所、水木しげるロード振興会、水木プロダクションで妖怪増殖推進委員会を結成し、妖怪ブロンズ像にかわって、妖怪街灯の全国公募を開始したが3週間も経たない内に43基の応募数を上まわって締め切り、3月中旬には増設された。3月下旬に実写版の映画「ゲゲゲの鬼太郎」の試写会を主演の鬼太郎役のウエンツ瑛士らを招いて積極的にPRを実施し、連休前の4月28日全国封切りに弾みをつけた。TVアニメも第5弾目となる「ゲゲゲの鬼太郎」新作も4月からフジテレビ系で全国放映がスタートした。これらの全国的な動きだけでなく、地元の民間企業でも車体に鬼太郎のペイントをして、運転手も鬼太郎の黄色と黒の縞模様のハンテンを身につけた鬼太郎タクシーが運行を開始する。これらの様々な取り組みの成果があって、2007（平成19）年ゴールデ

図3 観光活動設計の発展期のフロー図

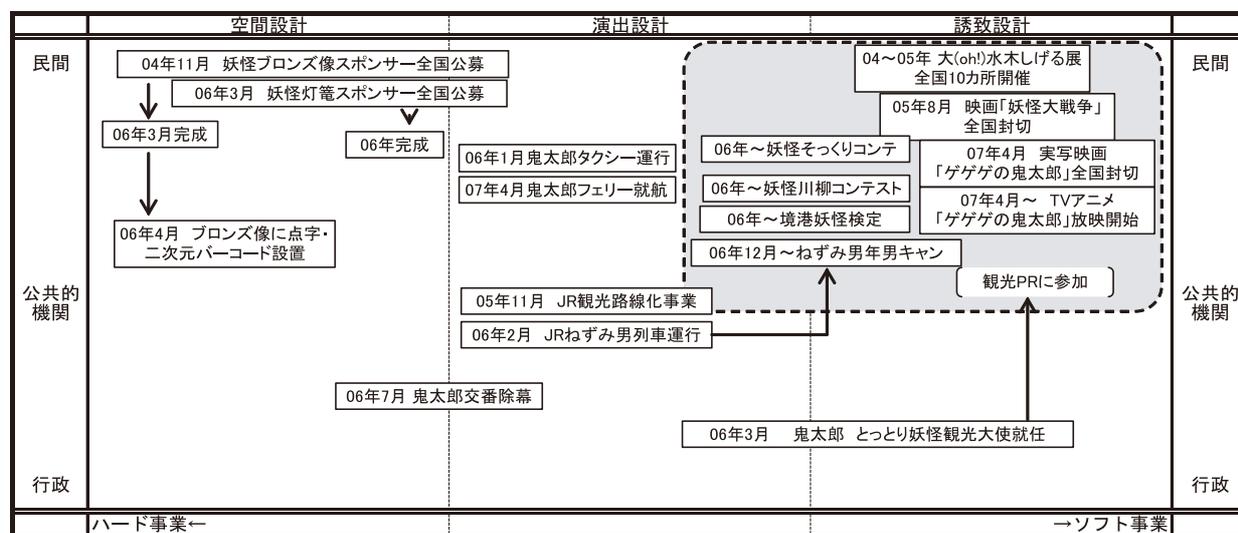
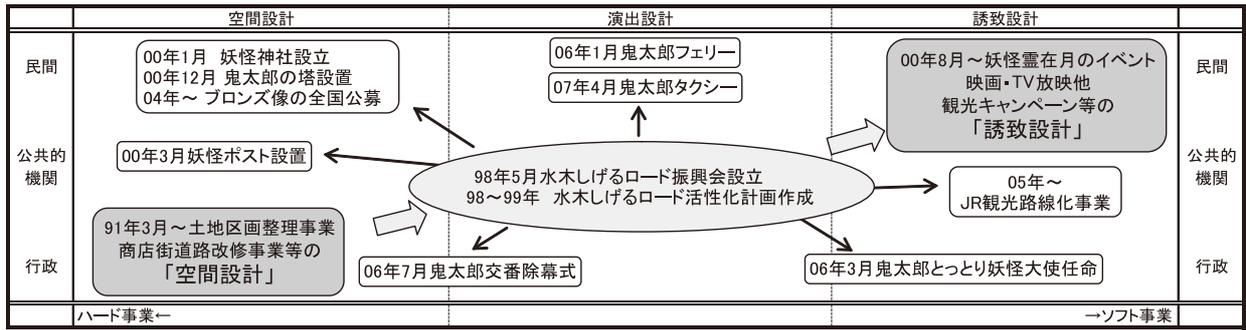


図4 観光活動設計の展開模式図



ンウィークの入り込み客が22万4千人を越し、鳥取県下一となる。JRが鬼太郎スタンプラリーを開始し、妖怪列車4両を連結運行する。郵政公社が妖怪の記念切手を発行するが2日間で1,000シートを完売する。10月には第2回妖怪そっくりコンテスト、11月には第2回境港妖怪検定試験を実施し、第2回妖怪川柳コンテスト公募を11月1日から開始し12月末に締め切り、年が明けて2月の発表となる。また、ねずみ男の年男キャンペーンも年を跨いで実施される。このように、次から次へ全国に向けた発信が行われて、2007（平成19）年の水木しげるロードの年間入り込み客は147万8千人を超え、境港の水木しげるロード周辺は賑わった。

3.2 観光活動設計の展開と地域イメージ

これら、一連の観光活動を振り返ってみると、構想期・初動期においては行政が主体となって土地区画整理事業、商店街等振興整備特別事業など国の助成事業を利用して基盤となる「空間設計」を押し進めて実施した。模索展開期は、ほぼ出来上がったその空間をどう演出して楽しむのかなど民間団体が中心になって計画をたて、まだ不足する「空間設計」を民間企業や全国公募によるスポンサーによ

て補完する工夫をして、「演出設計」を進めた。発展期はさらにどう観光客を誘致するのか、妖怪霊在月を制定して各種のイベントを実施する他、映画会社、テレビ局による水木しげる氏関連の映画、アニメなどの制作放映などを促した熱心な「誘致設計」があって、ここまで人を呼び込むことに成功した。

しかしながら、水木しげるロードはオープン当初の1997（平成9）年の朝日新聞紙上³、単行本⁴で都市史家中川氏にディズニーランド化した地域と直接つながらないイメージを仮構した大胆な例で、一時的に注目されるだけで、ブームもすぐ去ってしまうのではと懸念された。この懸念理由の「ディズニーランド化した地域と直接つながらないイメージ」はとても有用な示唆である。境港の水木しげるロードは指摘されたように地域のイメージと直接つながっていないのではなく逆に妖怪漫画の舞台とつながっているからこそブームが続いている理由の一つであると考えられる。また、地域に新たなデザインを持ち込もうとする時、歴史的な蓄積のなかで意味づけられた何らかの形態、あるいはそれを生成するだけの力を持った人々のコミュニティの存在が必要⁵であるとも指摘している。水木しげるロード以外の多くの地域⁶では懸念のと

3 朝日新聞朝刊（大阪）1997年1月25日、朝日新聞朝刊1997年2月20日「ディズニーランド化する街」の特集記事

4 中川理（1996年）「偽装するニッポン」pp212-213彰国社

りブームが去っている。

北栄町の「コナンの里づくり」の計画の中で、コナン通りを「名探偵コナン」に登場する「ベーカー街」をイメージしたレンガ基調の商店街、景観に形成することがあげられているがそのようなイメージは北栄町にはない。青山剛昌ふるさと館の利用促進案にしても、地域のイメージと乖離したアイデアでは、いくら「名探偵コナン」に人気があるといっても、中川氏の懸念どおりブームが来てもすぐ去るかも知れないし、ブームさえ来ないかもしれない。境港で水木氏の妖怪漫画の活用を考えた時、地域イメージとの関連性を重要視していたわけではなかったかも知れないが、水木氏の妖怪漫画を生み出す背景は彼の子供時代の境港であり、寂れた商店街にそのイメージがしっかりと残っていたことも功を奏したといえよう。北栄町の青山剛昌ふるさと館の活用方策では、今一度、地域イメージに相応しい「観光活動設計」のアイデアの検討と実行が望まれる。

3.3 水木しげるロード関連記事の新聞掲載

最近では「水木しげる関連」の新聞記事は毎日のように目にするが、水木しげるロードが着手されてから様々な活動のプロセスを経た結果である。そのプロセスの中で新聞記事に掲載される取り組みとして扱われたかどうか、その掲載件数を調べた。

「水木しげるロード」オープンの1992年から2007年12月まで約15年間の新聞記事を日経テレコン21の検索サイトより抽出して基礎データとし、「水木しげるロード」(完全一致)で検索された全国紙5紙(日本経済新聞、朝日

新聞、毎日新聞、読売新聞、産経新聞)の中から掲載数が一番多かった朝日新聞の記事を抽出し、年別、時期別に集計した。

構想期(1988~1992)には記事の掲載はなく、**初動期**(1993~1997)の1993年2月妖怪彫刻ロードが「水木しげるロード」と名付けられて整備される記事が最初で、水木しげるロードのオープン式典のお知らせ記事の他、オープン直後のブロンズ像盗難事件記事の掲載が4件あるが、1997年の博覧館期間中はほとんど関係記事の掲載はなく、最初の水木しげるロードオープン年の13件を含めても5年間にわずか23件で、それほど多く取り上げられていない。

模索展開期(1998~2003)になっても目に見える活動のなかった1998年2件、1999年3件、2000年5件と掲載件数は少なく、12月に「鬼太郎の塔」の民間設置の記事がある他は「水木しげるロードで第一声」「水木しげるロードの　　さん」と固有名詞化した掲載である。しかし、2001年の妖怪霊在月制定に伴うイベントなどが紹介されて掲載記事が増える。郵便局名を水木ロード郵便局への変更記事、水木妖怪文化館(仮称)計画の予算記事、水木しげる記念館の開館など行政機関の記事、ニュースソースの主体が特定出来ない記事などが2001年21件、2002年13件、2003年19件と後半に増え、模索展開期は計63件の掲載があった。

発展期(2004~2007)は民間団体が連携して設置委員会等を組織して妖怪ブロンズ像、妖怪街灯スポンサーの全国公募の周知記事掲載の他、次々に民間団体が主催するイベント案内や定期的な観光情報の掲載、記者独自のコラム記事や水木しげるロード紹介記事が20

5 中川理(1996年)「偽装するニッポン」pp219-220 彰国社

6 「偽装するニッポン」の中では岩手県の吉里吉里王国、福島県のニコニコ共和国等のミニ独立国の例の他、鳥取県溝口町の鬼のまちづくりによる公衆トイレやミュージアムの例が紹介されている。

04年12件、2005年16件、2006年35件、2007年50件と増え、4年間で113件の掲載件数となっている。

以上の結果から新聞の掲載件数をみても初動期はあまり関心をもたれず、模索展開期の後期になって妖怪霊在月の様々なイベントで掲載数も増え、発展期に入り全国規模の妖怪そっくりコンテスト、妖怪川柳などの募集、結果発表などで新聞掲載件数も増加し、また水木しげるロードへの入り込み客数も増えている。全体的に新聞掲載件数が増加傾向の中で、特に妖怪霊在月のイベントが増加した2001（平成13）年、全国を対象にした妖怪そっくりコンテスト、妖怪川柳などを次々実施した2006（平成18）年、2007（平成19）年は応募の案内の他、コンテストの様子や結果発表の掲載など民間団体がニュースソースの記事が図5のとおり増えている。なお、これらの記事掲載によってコンテストの応募数が約3倍に増加するなどの効果をもたらした要因の一つと考えられる。

これらの水木しげる関連事業の展開プロセ

スを期間ごとにまとめた一覧は図6、図7のとおりである。

4. 妖怪ブロンズ像設置の変遷と「空間設計」

JR境港駅から東側に連なる大正町、松ヶ枝町、本町、銀座中町に至る道路に沿って商店街があるが、現在この沿線の歩道に妖怪ブロンズ像が120体設置されているのが水木しげるロードである。

この水木しげるロードにブロンズ像を設置する「商店街等振興整備特別事業」開始の1992（平成4）年時点では大正町の駅側は土地区画整理事業が始まったばかりであった。もともと大正町は駅と港湾運輸関連の業務用地が多く、新港建設に伴い整理統合された内港再整備の一環として土地区画整理事業は着手され、商店街等振興整備特別事業とは直接関係なく実施されていた。JR境港駅の移転のほか、JR構内上屋、運送会社の倉庫作業施設等の解体と新たな区画街路の整備に取り掛かり始めた時期で、商店街等振興整備特別事業

図5 水木ロード関連記事掲載件数と入込客数の推移（新聞掲載数は朝日新聞）

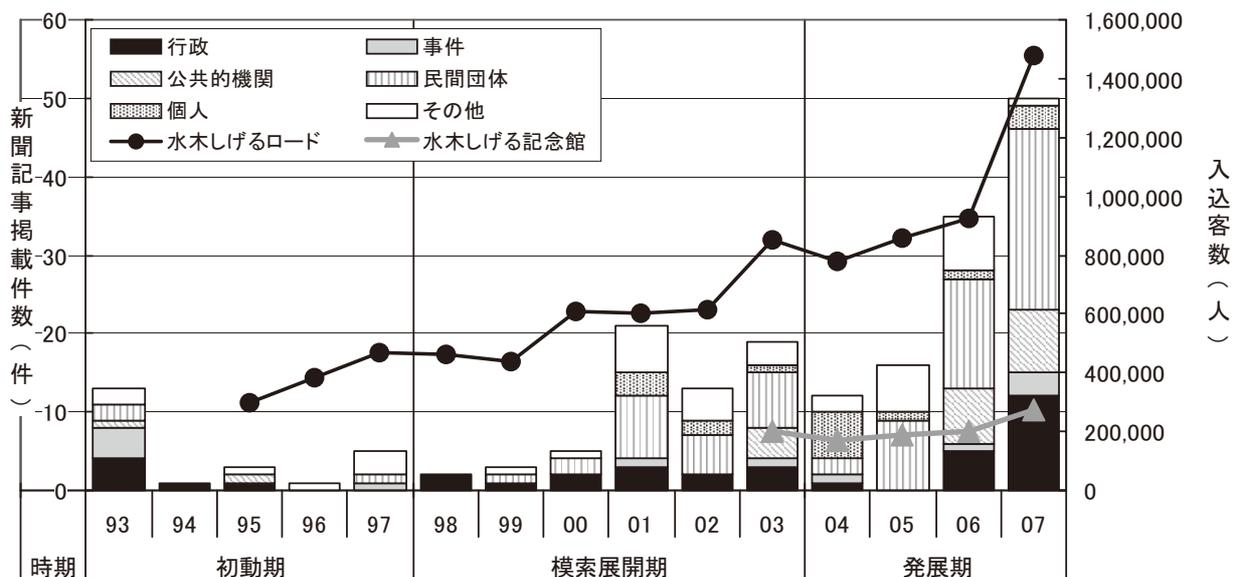
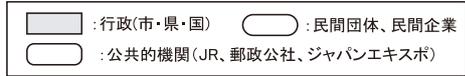
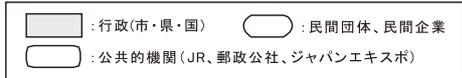


図6 水木しげる周辺関連事業の展開プロセス1



年	主な組織	観光活動設計			評価・影響	ブロンズ		ロード	年
		空間設計	演出設計	誘致設計		設置	累計		
構 想 期 (88 ~ 92)	境港市役所内 街づくりプロジェクトチーム		緑と文化のまちづくりフォーラム		市と水木氏との 縁ができる	-	-	-	88
						-	-	-	89
						-	-	-	90
	市・自治省 市・鳥取県	自治省商店街振興整備特別事業 認可・着手 境港駅を含む 土地区画整理事業 (~97.11)		91.8月、92.8月 NHK-TV 水木しげる自伝 「のんのんばあと オレ」放映	住民反対・市担当の説明 松ヶ枝町の同意	6	6	-	92
初 動 期 (93 ~ 97)	境港市	道路改修 200mに23体のブロンズ像設置	7月 ロードオープン・除幕式		住民の同意・賛同拡がる 国・県・JR等の側面支援	17	23	21,000	93
	JR		9月 鬼太郎列車運行	妖怪ブロンズ 像の盗難事件 ニュース全国 放送					
	郵政省		7月 市内郵便局 妖怪消印サービス			17	40	281,720	94
	JR	2月 境港駅 リニューアル	12月 市報別冊(市民用) 妖怪ガイドブック作成		95年 建設省 手づくり郷土賞				
	民間:日本交通		7月 高速バス車体に鬼太郎イラスト	ガイドブックPR用に 観光協会が増刷					
	境港市	ブロンズ像 800mに80体 妖怪レリーフ5種類	8月 水木しげるロード完成式典	8月 世界妖怪会議 (文化ホール)		9	80	380,344	96
	県・市 境港管理組合 ジャパンエキスポ	7月 みなとさかい交流館 フェリー乗り場 境港管理組合事務所	7月~9月 夢みなと博覧会 (鬼太郎ワンダーシア ター)	8月 世界妖怪会議 (博覧会会場)	97年 建設省 手づくり郷土賞 ジャパンエキスポ大賞 通産大臣賞		80	467,572	97
模 索 展 開 期 (98 ~ 03)	5月 水木しげるロード 振興会設立 境港商工会議所	水木しげるロード活性化計画作成	妖怪スタンプ設置			-	80	463,185	98
						-	80	435,886	99
	民間:㈱アイズ JR 郵政省	1月 妖怪神社設置	5月 鬼太郎等人気キャラクターの 着ぐるみがロードを歩く		行政から民間へ 民間企業の取組が増える	3	83	610,311	00
	民間:境港海陸運送	3月 妖怪ポスト設置	8月 2代目鬼太郎列車運行						
	境港市観光協会 水木しげるロード振興会	12月 鬼太郎の塔設置	10月~12月 鬼太郎に手紙を書こうキャンペーン						
	境港市 境港商工会議所	3月 倉庫に妖怪大壁画	8月 妖怪霊在月制定	妖怪ふるさと祭り	8月を妖怪霊在月として イベント月とする	-	83	603,414	01
			3月 印鑑証明書・ 住民票等の偽造防止 の透かしに妖怪を使用	8月 妖怪ジャズ フェスティバル		-	83	614,555	02
水木しげるロード振興会 境港市	3月 ブロンズ像を3体追加	8月 水木しげる記念館開館	10月 世界妖怪会議		3	86	854,474 (記念館 197,747)	03	

図7 水木しげる周辺関連事業の展開プロセス2

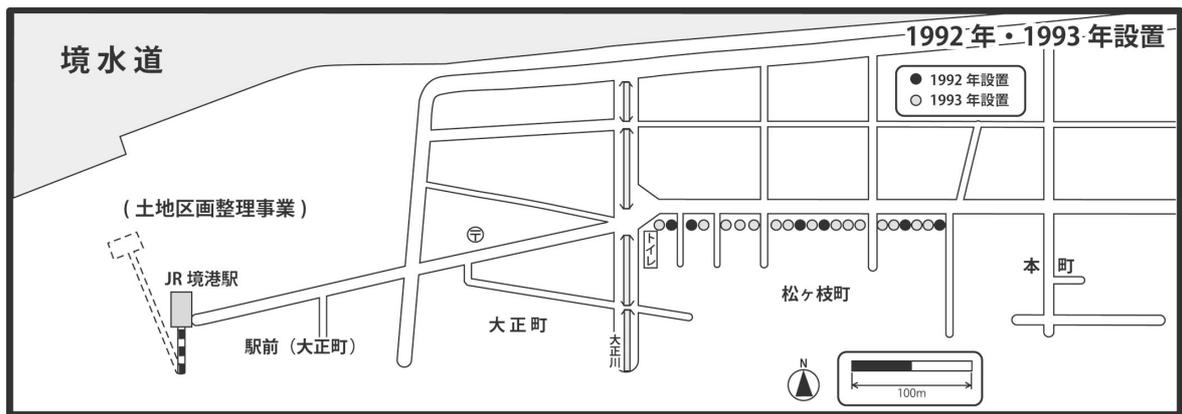


年	主な組織	観光活動設計			評価・影響	ブロンズ 設置 累計	ロード 入込客数	年
		空間設計	演出設計	誘致設計				
04	妖怪ブロンズ像設置委員会 ↑ 境港市観光協会 商店街連合会・水木プロ 水木しげるロード振興会 朝日新聞社	11月 ブロンズ像スポンサーの 全国公募		4月～05年9月 大 水木しげる展 (全国10カ所開催)	全国的なPR活動が 様々な機関でされる	86	779,364 (記念館 172,984)	04
	境港市観光協会	3月 公募ブロンズ16体完成	6月 「水木しげるロードの 妖怪たち」発刊	4月 境港市観光協会が 日本観光協会主催 第12回「優秀観光地づ くり賞」を受賞				
	水木しげるロード振興会	7月 公募ブロンズ7体完成	JR境線観光路線化事業					
	角川映画 JR	ブロンズ像4体完成	7月 水木しげる氏を招き 入魂式と除幕式					
05	水木しげるロード振興会 角川映画 JR	11月 公募ブロンズ3体完成 12月 公募ブロンズ2体完成	11月 JR境線観光路線化事業 米子～境港間16駅装飾 妖怪列車車両デザインリニューアル		32	118	855,207 (記念館 188,616)	05
	隠岐青年会議所 JR 鳥取県	1月 鬼太郎フェリー就航セレモニー 2月 「ねずみ男」列車運行						
	JR	3月 公募ブロンズ1体完成	鬼太郎「とっとり妖怪観光大使」任命式	中小企業庁「がんばる 商店街77選」に 「水木ロード周辺商店 街」選定				
	4月 水木ロード の点字ガイド整備 ブロンズ像に点字 シール・二次元 バーコード設置	7月「鬼太郎交番」 除幕式	鬼太郎着ぐるみ新調	全国を対象にした イベントが次々と 実施される				
10月 山高帽の水木先生 ブロンズ像設置で 合計120体	8月 第1回妖怪 そっくりコンテスト	10月 第1回 境港妖怪検定						
06	境港商工会議所 境港市観光協会 境港市観光協会			10月 第1回 妖怪川柳コンテスト	2	120	926,909 (記念館 198,694)	06
	境港市観光協会			11月 ゲゲゲの ゲタつみ大会				
				12月 第1回 妖怪人気投票				
07	境港市観光協会等 街灯増殖推進委員会 JR わかとり交通 松竹映画 フジテレビ	1月 妖怪街灯スポンサーの 全国公募→42基設置	3月7日 妖怪列車4種類連結運行	3月 実写映画「ゲゲゲの鬼太 郎」試写会 主演ウエンツ瑛士境港来訪PR GWから全国封切	民間企業を中心とした PR効果のある取り組みが 次々と実施される	120	1,478,330 (記念館 274,638)	07
	皆生トリアスロン協会 郵政公社	7月 水木しげるロードを 皆生トリアスロンコースにする	4月 鬼太郎タクシー 運行開始	4月 アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」 全国放映				
	境港市観光協会 境港商工会議所 境港市観光協会 境港市観光協会	7月 妖怪切手シート販売 2日で千枚売		7月 水木しげるロードを 皆生トリアスロンコースにする				
	境港市観光協会	10月 第2回妖怪 そっくりコンテスト	11月 第2回 境港妖怪検定	11～12月 第2回 妖怪川柳コンテスト				
		12月～ ねずみ男年男キャンペーン						

図8 水木しげるロード周辺地図 (2008)



図9 妖怪ブロンズ像の設置位置 1



による妖怪ブロンズ像の工事がようやく始まった時期と重なっている。1992（平成4）年に6体の妖怪ブロンズ像が設置されたのは松ヶ枝町南側の最初に同意を得られた商店前の歩道である。1993（平成5）年に同じ松ヶ枝町南側に17体追加され約200mに23体となった。

(図9)

1994（平成6）年には図10のように松ヶ枝町の西側に続く大正町の橋部分を含む両側にブロンズ像が17体追加され約350mに40体となった。1994（平成6）年8月にJR境港駅の移転工事は着手し道路工事も併せて進み、

1995（平成7）年2月に境港駅はリニューアルオープンした。1994（平成6）年に鳥取県で建設計画をつくったフェリー乗り場も兼ねた「さかいみなと交流館」がJR境港駅に隣接した基本設計で1995（平成7）年7月にまとまった。

1995（平成7）年には境港駅周辺の土地区画整理事業区域は妖怪ブロンズ像設置を説得しなければならない関係者も少なく一気に1995年に31体を設置し、1996（平成8）年には本町に9体を設置して、8月自治省商店街等振興整備特別事業による水木しげるロード整

図10 妖怪ブロンズ像の設置位置2

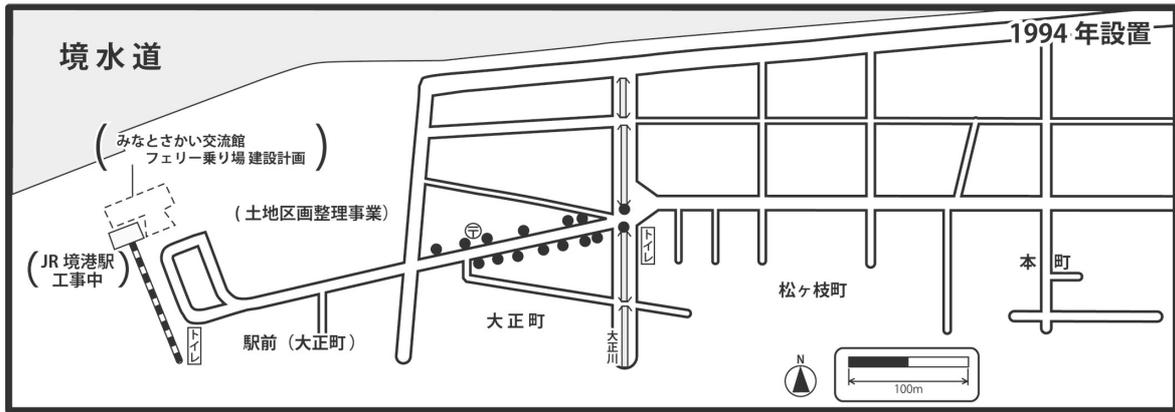
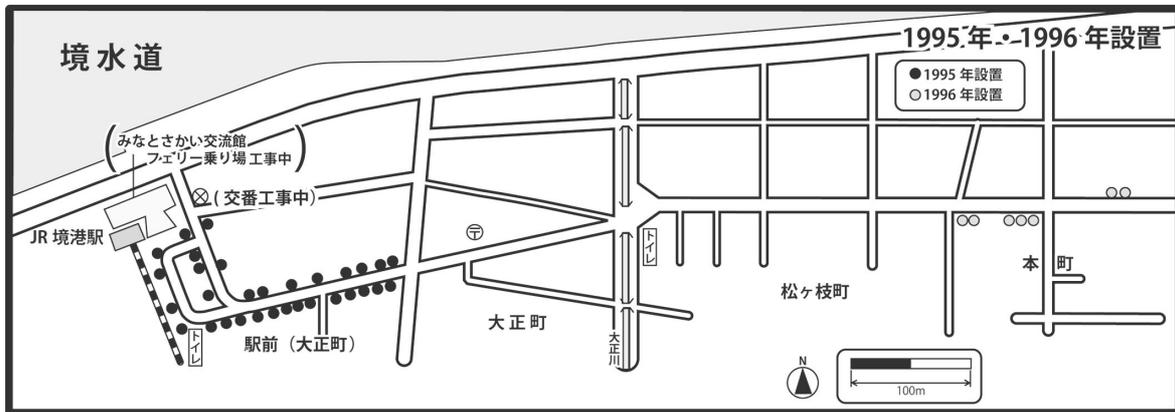


図11 妖怪ブロンズ像の設置位置3



備は約800mに合計80体の妖怪ブロンズ像を設置して終了となった（図11）。

翌1997（平成9）年から1999（平成11）年までに新たな設置はなく、2000（平成12）年地元企業の寄贈による妖怪ブロンズ像の2体と郵便局のポストにブロンズ像をのせた妖怪ポストの3体が加わった。2001（平成13）年には追加がなく、水木しげる記念館の竣工に間に合うように2002（平成14）年に境港市が3体のブロンズ像を発注し、2003年（平成15）年3月に設置完了し、86体となった。

妖怪ブロンズ像設置は事業に最初に賛同した松ヶ枝町南側からスタートし、大正町に移り土地区画整理事業区域内の駅前大正町とつ

ながり、JR境港駅とフェリー乗り場と観光案内所が入っている「みなとさかい交流館」から約800m東側に出来た水木しげる記念館までの間に86体のブロンズ像が並ぶ細長い「空間設計」が出来上がった。しかし、まだ密度の薄い部分もあり、100体までブロンズ像を増やしたいとの地元関係者の思いから、これ以上は予算が厳しいという行政に頼らず、2004（平成16）年スポンサーを全国公募し、自らの会社、団体もスポンサーになって密度の薄い部分に設置し、境港商工会議所は水木しげる記念館前に水木氏のブロンズ像を最後の120体目として寄贈し、15年間のブロンズ像設置の事業は終了した。

図12 妖怪ブロンズ像の設置位置4

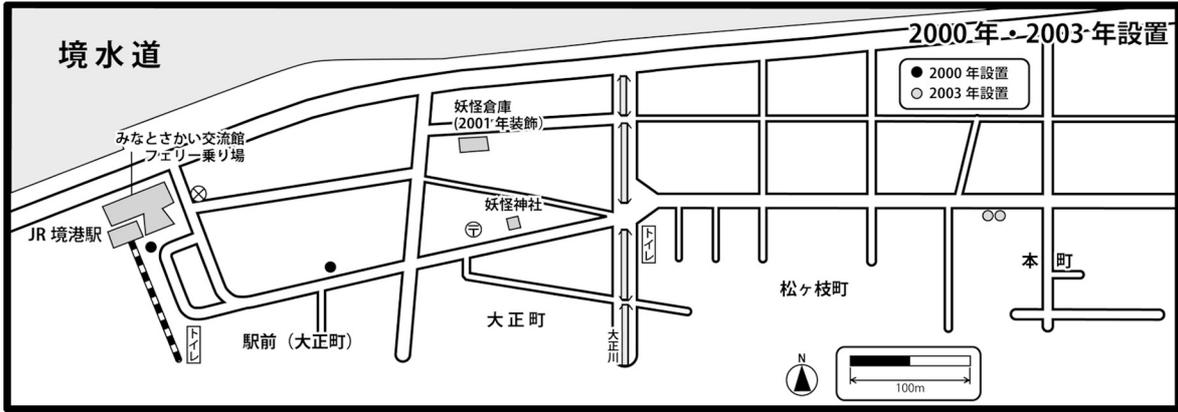


図13 妖怪ブロンズ像の設置位置5

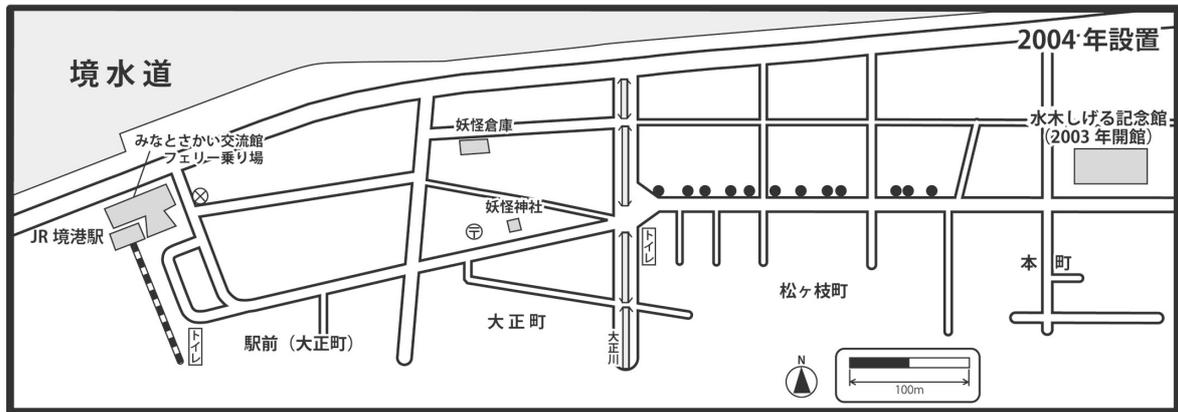


図14 妖怪ブロンズ像の設置位置6

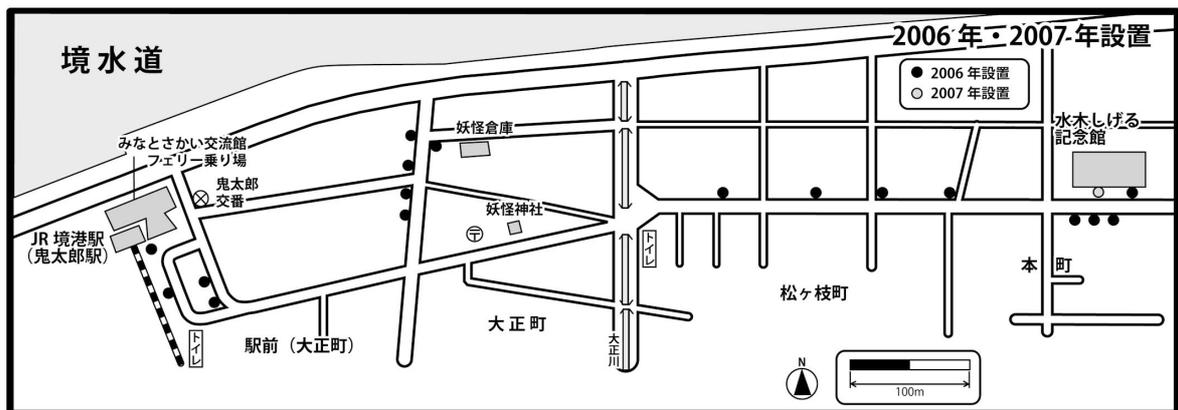
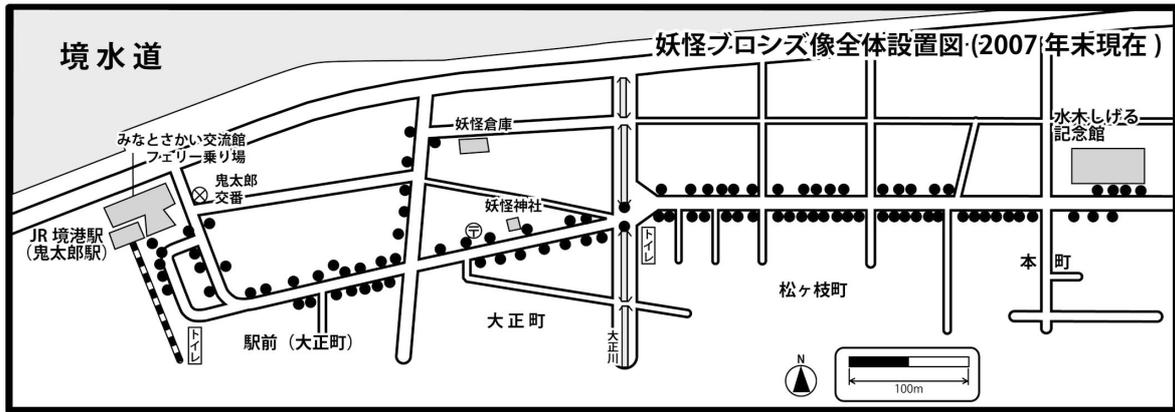


図15 水木しげるロード全体に並んだ妖怪ブロンズ像



5. まとめ

境港市の水木しげるロード周辺を観光活動設計という視点でプロセスをみると、まずJR境港駅を含む駅前周辺は土地区画整理事業を使ってその基盤となる整備が初動期に行われた。同時期に駅から東側に延びる商店街活性化のための道路改修として水木しげるロード整備が始められていたが、土地区画整理事業とリンクした公共事業としてすすめられたわけではなかった。妖怪ブロンズ像設置が全国ニュースとなってPRされる幸運もあって、集客効果が上がりブロンズ像設置が大正町に進展し、さらに駅前大正地区の妖怪ブロンズ像設置は水木しげるロード整備の商店街等振興整備特別事業と駅前の土地区画整備事業のタイミングが合って加速した。

財政的にいろいろと厳しい状況にあった境港市にとって国、県からの助成が受けられる事業でなければすすめられる状況ではなかった。「空間設計」の核となるフェリー乗り場を兼ねた「みなとさかい交流館」「水木しげる記念館」も公共事業の助成事業なくしては実現しなかったであろう。特に「水木しげる記念館」は境港市の財政状況から計画を一時中断し、自治省の地域総合整備事業の助成期限間際に古い料亭の取得改修の案が出て、ようやく実現した。計画どおりの場所では実現

しなかったが安くしかも広い場所で、水木しげるロードも若干延長される位置関係となり、逆に良い「空間設計」であったと云える。

水木しげるロードのブロンズ像設置も一度に整備するのではなく（一度に整備できる余裕もなかったこともあり）、徐々に整備を行い、1年ごとにブロンズ像が増えたこと、整備が終わった節目ごとにオープン式典を、水木氏を招いて実施したこと、様々なイベントを駅前広場や水木しげる記念館、妖怪神社で行うなど水木しげるロードと一体的に空間活用を行ったことで水木しげるロードへの集客効果があったと考えられる。

「空間設計」の出来上がりが終わりではなく、いかにその活用を図るか民間団体が中心になって知恵を絞り、「妖怪」や水木漫画の人気キャラクター「鬼太郎」等に託けたイベントを次々に実施してきたことも大きな成功要因である。映画会社、テレビ局も水木しげる氏の魅力と地元関係者の働きかけもあって、映画やテレビ番組の制作放映がなされ、その結果、「妖怪漫画家といえば水木しげる」であるが、「妖怪のまちといえば境港」を定着させて、「妖怪」がある意味で境港の地域ブランドとなっている。それを今後どう活かしていくのが継続発展させる鍵である。

様々な取り組みがタイミングよく機能して

観光入り込み客数を順調に増やし、水木しげるロードは商店街再活性化のモデルとして評価されるようになったが、必ずしも順風満帆であったわけではない。また、今後もこの好調さが保たれるという保証もない。ハードな整備事業が一段落した時期に、それらを今後どのように活かしていけば良いのか真剣に考え、知恵を絞り実践してきたように、この好調さをどう維持発展させるか、また真剣に考えなければならない時期に入っている。そのため、今一度、プロセスを振り返り、また地域で起こっている現象に刮目して問題点、課題を抽出することも必要である。

すでに、観光地して活性化した地域に起こりがちな事例がわずかであるが散見されるようになってきている。境港の地域の魅力は何なのか原点に戻り、観光地化していない昭和30年代の商店街が水木漫画にフィットしたことを思いおこし、どこの観光地でもありそうな地域のイメージに相応しくないフェイクな観光土産店をつくってはいけない。また、全国的に評価されるようになってくるとその功績を、自分のものにしようとする者も出てくる。個人力でここまでになったのではなく、それぞれ各個人の役割を超えた連携が力を倍増させて成果を上げてきたのだとの認識を持たねばならない。苦戦している時は一緒になって助け合いながら進むが好調になると功利を競ってものごとが上手く行かなくなるのは、まちづくりに限ったことではない。そのような者が出てくると上手く行っていた連携がくずれ、活性化が留まり、衰退が始まるようになる。まだ、そのような例は前面に出てないが、各団体に聞き取りを行っていく中で感じた。それが杞憂でなければ解決していかなければならない今後の課題である。

「空間設計」「演出設計」「誘致設計」の絶妙なタイミングと民間団体、公共的機関、行

政機関が信頼しあったバランスの良い連携が境港の活性化の成功要因である。妖怪、漫画を使ったまちづくりで先行して評価をあげた境港に参考となる同じモデルがないことも課題だが、成功要因となったバランスの良い連携を活かして、今後さらにオンリーワンのまちづくりモデルになるチャンスでもある。今後課題の地域の魅力に相応しい観光土産店をどう造っていくか、相応しくないものをどうやって相応しいものに修正し、魅力をつけていくか、今後、水木しげるロード周辺商店街全体に拡がりを持たせた検討が必要である。

謝辞

資料提供をいただきました境港市役所、聞き取りに応じていただきました境港市観光協会、水木しげるロード振興会の関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

【参考文献】

- 中川理．1996．『偽装するニッポン』彰国社．
- 大森洋子・西山徳明．1997．「歴史的町並み地区における観光活動設計に関する研究」『第32回日本都市計画学会都市計画論文集』：277-282．
- 境港市．2001．『境港市四十五周年史』境港市．
- 境港市観光協会．2005．『水木しげるロードの妖怪たち』境港市観光協会．
- 澤田廉路．2005a．「水木しげるロード整備等が及ぼす経済波及効果について」『TORCレポート』No.25：62-73．
- 2005b．「水木しげる関連事業と地域マネジメント」『TORCレポート』No.26：100-112．
- 2006．「青山剛昌ふるさと館開館に伴う地域活性化の展望と課題」『TORCレポート』No.28：112-124．
- 2007．「地域資源を活かした中心市街地商店街の活性化について」『TORCレポート』

No.29 : 71-84.

五十嵐佳子. 2006. 『こんなに楽しい！妖怪の町』
実業之日本社.

黒目友則. 2007. 『妖怪になりそこなった男水木
しげるロード物語』YMブックス.

境港市観光協会 : <http://www.sakaiminato.net/>(2008
年2月)

日経テレコン21 : [http://telecom21.nikkei.co.jp/
nt21/service/](http://telecom21.nikkei.co.jp/nt21/service/)(2008年2月 : 記事検索 / 新聞)